

目次

カラー図版

絵入謡本

能狂言画帖

能狂言絵巻

能狂言図巻

解題・詞章

神戸女子大学古典芸能研究センター蔵『絵入謡本』解題

『絵入謡本』詞章

神戸女子大学図書館蔵『能狂言画帖』『能狂言絵巻』『能狂言図巻』解題

『能狂言絵巻』詞章

小林健二

小林健二

135

125

92

83

65

50

40

3

『絵入謡本』 解題

I 『絵入謡本』 書誌

〔整理番号〕五―2―1 3901～3912

〔装幀・数量〕列帖装、十二帖。

〔表紙〕紺紙に金泥で霞引きに草木模様を描き、その上に金の切箔と砂子を散らす。

〔見返し〕銀の砂子を撒いて、さらに金銀切箔を散らす。銀の箔が変色していないので後補の可能性もある。後ろ見返しは本文と共紙で装飾は施されていない。

〔料紙〕鳥の子。

〔寸法〕二種類（A縦二四・〇×横一七・一糎、B縦二三・六×横一七・二糎）がある。

〔外題・内題〕表紙の左上に題簽が貼られ、曲名が本文と同筆で墨書されるが、題簽の大きさは書冊の寸法に準じており、二種類（A縦一五・一×横三・二糎、B縦一四・三×横三・二糎）に分けられる。内題はなし。

〔節付け記号〕本文には役がかわる箇所でも右肩に肩カギが付され、役名が表記される。また、「詞・カ、ル・一セ  
イ・サシ・上歌・ロンギ・クセ・ワカ・キリ」および「上・中・下」などの節付け記号が付される。ゴマ点は

なし。

〔詞書〕 詞書（詞章）は観世流の謡本による。書体は十二帖が一筆と見られ、江戸前期の絵巻や絵本によく見られる詞書の書風と似る。

〔半丁の行数〕 原則として各冊七行だが、《三輪》だけは六行。

〔挿絵〕 濃彩のいわゆる奈良絵の画風で、各帖に原則として四図（橋弁慶）だけ三図であるが、これは一曲が短く、丁数が少ないためと考えられる）が施されるが、十一箇所（の絵が剥がされて、書冊より抜かれている）。

次に、各帖の大きさの別（A・B）、外題、紙数（丁数）、半丁あたりの行数、挿絵の位置と有無を列挙して示す。挿絵が抜かれた箇所は傍線を付して示した。なお、全帖の順序は購入時のままとするが、一応、五番立てを意識した配列となっている。

A	〔養老〕	15丁	7行	絵	3丁裏	8丁裏	12丁表	14丁裏	
A	〔道盛〕	17丁	7行	絵	4丁表	7丁裏	11丁表	15丁裏	
B	〔きよつね〕	21丁	7行	絵	3丁裏	7丁裏	12丁裏	19丁裏	
B	〔三輪〕	15丁	6行	絵	3丁表	6丁表	10丁表	14丁裏	
B	〔松風〕	21丁	7行	絵	3丁表	9丁表	16丁表	20丁表	
B	〔あこぎ〕	14丁	7行	絵	3丁表	6丁表	9丁裏	13丁表	
B	〔あふひの上〕	14丁	7行	絵	2丁裏	7丁表	10丁裏	13丁裏	
A	〔盛久〕	24丁	7行	絵	2丁裏	9丁裏	15丁裏	23丁表	
B	〔ありとをし〕	14丁	7行	絵	3丁裏	7丁表	10丁裏	13丁裏	
B	〔邯鄲〕	16丁	7行	絵	3丁表	7丁裏・8丁表	(見開きか)	11丁裏・12丁表	(見開きか)
								15丁表	

B 「橋弁慶」	10丁	7行	絵	3丁裏	6丁表	※10丁裏
A 「殺生石」	17丁	7行	絵	2丁裏	7丁表	11丁表 15丁表

(※を記した「橋弁慶」の10丁裏は最終丁の裏になるので、あるいは挿絵が無かったことも考えられるが、全十丁に二図では少なく、直前の詞書も散らし書で終わっているので挿絵があったと判断する)

## II 箱書から知られる伝来と特徴

『絵入謡本』(以下、神戸女子大本と略称する)を収める木箱の寸法は、縦二六・七糎×横一九・八糎×高さ八・〇糎で、蓋表の右側に「繪入謡本 十二冊」と墨書され、裏の中部に付箋(縦一五・〇糎×横三・〇糎)が貼られ、「大正十三年甲子七月十日／前田家於本郷邸内御払道具ノ節求之」と墨書される。側面(天の左)には紙片(縦六・〇糎×横三・三糎)が貼られ「一六」の墨書があり、また別の側面(地の右)にも紙片(縦三・一糎×横一・五糎)が貼られ「第六十二号」の墨書を朱で線引(ミセケチ)して左側に「第十四号」と朱書する。同じく側面(左)に紙片(縦三・八糎×横四・三糎)が貼られ「巻冊(上)／卅九番／不完本／挿画謡曲十二冊」と墨書される。

右の箱書に付された情報により、本資料は前田家の旧蔵であり、大正十三年(一九二四)七月十日の道具類の売り立ての際に新たな所蔵者に求められたことが知られる。側面に貼られた紙片の数字は前田家に所蔵されていた時の整理番号であろう。

また、側面の紙片に記された「不完本」の記述は、挿絵が抜かれている箇所が多く認められるために、挿絵欠の意味で記したと一応とれるが、あるいは後に述べるように揃い本として欠けた冊があることを示していることも考えられる。

以上であるが、神戸女子大本の特徴は、加賀前田家の旧蔵という確かな伝来を持つ本であり、大名家の道具として相応しい体裁を持つことであろう。揃い本である細川護熙氏本や東洋文庫本も大名家の所蔵であったと考え

執筆者一覧

## 小林健二

国文学研究資料館教授 神戸女子大学古典芸能研究センター客員研究員

## 樹下文隆

神戸女子大学文学部教授 神戸女子大学古典芸能研究センター兼任研究員

神戸女子大学古典芸能研究センター編  
神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集2

えいりうたいぼん のうきょうげんえ  
絵入謡本と能狂言絵

2018(平成30)年11月1日発行

監修 樹下文隆

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 電話 075-533-6860 (代表)

装幀 上野かおる + 中島佳那子 (鷺草デザイン事務所)

印刷製本 亜細亜印刷株式会社

ISBN978-4-7842-1954-4 C3395

©Research Center of Classic Performing Arts, Kobe Women's University 2018

Printed in Japan

本書の無断複製・転載・複写を禁じます